

請 願 文 書 表 (2 3 - 2 - その 1)

- 1 受理番号 請願第1号 令和5年5月12日受理
- 2 件 名 「新井白石没後300年展」を君津市と共催で行なうことを願う請願書
- 3 請 願 者 住 所 君津市君津台1-3-3
氏 名 新井白石没後300年展実行委員会
代表 坂井 昭

4 趣 旨

江戸時代の半ばに第6代将軍徳川家宣のもとで、側用人の間部詮房と共に「正徳の治」を実践し、諸政策を実現させた人として、中学校・高校の歴史(日本史)の教科書に掲載され、広く知られる人物に新井白石(1657~1725)がおります。その彼が若い日に江戸から本市の旧城下町の久留里の地に何度も訪れ、同地とゆかりの深い人物となったことが、新発見の土屋家関係資料(*国文学研究資料館で平成20年4月に発見)の発表などととともに少しずつ知られるようになりました。

2010年(平成22年)5月~8月に本市の久留里地区の活性化を目指し、「久留里地区と新井白石著『折たく柴の記』を愛する会」(*68名)により(仮称)「新井白石記念館」の建設や設立をするための署名活動を熱心に行ないました。13,050名の個人と235の団体からの署名を得、同年9月の本市議会に陳情書を提出し、採択されました。署名活動では多くの本市市民をはじめ、ドナルド・キーン氏(*1922.6.18~2019.2.24)や元日本近代文学館館長の中村 稔先生、NHK大河ドラマ「忠臣蔵の恋- 四十八人目の忠臣」(*2016年9月~2017年2月までNHKテレビ土曜時代劇で放送)の原作者で小説家の諸田玲子さん、木更津市出身の俳優のなかお あきら いけなみ し の 中尾 彬・池波志乃さんご夫妻など、大勢の方々から署名をいただきました。

2012年(平成24年)9月29日には本市と同様に新井白石のゆかりの地の埼玉県白岡市(*平成24年9月末まで埼玉県南埼玉郡白岡町)で市制施行を記念する講演会(*主催者は白岡町)の講演者にわたしが指名され、講演をいたしました。数年後には白岡市市民と本市市民などとの間で交流が始まりました。

2014年(平成26年)9月には本市議会9月定例会で「君津市議会が白岡市と〈友好都市協定〉を結び、心温まる交流が続けられることを願う請願書」を小林喜久男議員に紹介議員となっただき提出し採択をいただきました。白岡市から大勢の市民の方々が久留里地区を訪問することもありました(*『広報きみつ』平成27年4月・第524号と朝日新聞・平成27年3月8日記事で紹介)。この年は、市民の出版事業として「文化のまちづくり市税1%支援事業」を活用し、『君津から贈る 新井白石古詩集』(全303頁。[仮称])新井白石記念館の設立を応援する会編。700部発行)の出版をし、NPO法人日本自費出版ネットワーク(*中山千夏代表)より第18回日本自費出版文化賞の入選となり、その栄に輝きました(*『広報きみつ』平成28年1月・第533号で紹介)。その後、2017年には、2月10日の新井白石の誕生日にちなみ、本市議会と白岡市議会が同年の同日に友好交流協定を結びました(*『きみつ市議会だより』同年5月・第128号と『議会だよりしらおか』同年5月・第195号で紹介)。同年8月には、白石の若い日の恩人の伴 幽

庵（*？～1722 久留里の町医者）の、今まで存在さえ知られていなかった墓石（*宝篋印塔）が末裔家の伴 憲章氏（*本市久留里市場在住）とご家族への聞き取り調査で見つかり確定するという話題がありました（*新井白石記念館の設立を応援する会編・平成28年3月刊『書物への愛 桜田御文庫と新井白石』に記録・写真を掲載）。

2017年（平成29年）8月22日には新井白石義兄家の末裔の軍司信一家から本市へ、同年から数えて328年前に作成の白石自筆の書（掛け軸）の寄贈があり（*『広報きみつ』同年10月・第554号、本市ツイッターでも紹介）、5年後の2022年（令和4年）度には本市がその複製品を制作し、翌2023年（令和5年）4月末から5月末まで久留里城址資料館で一般公開する（*『広報きみつ』同年5月・第621号で紹介）機会を得ました。

君津市と白岡市との関係では進展があり、両市は平成30年3月に災害時相互応援協定を締結していましたが、翌令和元年秋に本市に甚大な被害のあった房総半島への台風の襲来の際に、白岡市から物資の提供や人的支援を受けるなどのことがありました。そのことから令和2年3月に白岡市を会場として「友好都市協定」の締結を予定していましたが、新型コロナウイルス感染の影響で延期し、半年後の9月にオンラインによる署名式を行ない、同協定を締結いたしました（*『広報きみつ』同年9月・第589号で紹介）。それより少し前の平成30年には白石と父の正済が若い日に勤仕した大名の直系のご子孫の土屋慶紀氏（*神奈川県厚木市在住）が10月28日に実施の久留里城祭りの大名行列に先祖の土屋忠直（?～1612）役に扮して参加されるということがありました（*坂井 昭著『新井白石編撰〈八幡太郎義家画賛〉の誕生譚』に記録）。それが縁で同氏との交際が今日まで続いています。

新井白石記念館の設立の活動や市民の学習の機会を契機に、その関係の研究冊子の送付を通じて、久留里土屋家の次の領地となった静岡県周智郡森町の方々や同家から分かれた土浦土屋家のおひざもとの茨城県土浦市の方々とも親しくなりました。新井白石の関係の寺院では、菩提寺の高徳寺（*真宗大谷派。東京都中野区）、曾祖父の菩提寺の龍光寺（*曹洞宗。群馬県前橋市）、白石の知行地だった鎌倉の龍宝寺（*曹洞宗。神奈川県鎌倉市）、同じく知行地だった白岡市の観福寺（*真言宗智山派。埼玉県白岡市）、白石の祖父母の菩提寺の聖徳寺（*真宗大谷派。茨城県つくばみらい市）、近代期以降の新井白石末裔家の菩提寺の浄願寺（*真宗大谷派。愛知県名古屋市）、白石の恩人の伴 幽庵の菩提寺の正源寺（*浄土宗。君津市久留里市場）など多数の寺院の関係者と、ささやかにですがお付き合いをさせていただいています。

「新井白石没後300年展」は、久留里地区の活性化をめざしながら、わたしたち市民がこの15年以上の間、彼の著作について学習や研究を積み重ねてきた成果と本市と彼の関わりを大勢の国民の方々に見ていただく場と考えています。参考までに彼の没後200年展は、大正13年（*「数え年」で1924年が該当の年と数えました）5月23日～26日まで東京帝国大学文学部史料編纂掛がその第12回史料展覧会にて同大学の3教室を用い、うち1室を新井白石関係資料の部屋として展示を実施したもの（*『史学雑誌』第35編第7号に記録）です。4日間の会期で3,500名の来観者があったと言われ、関心の高さがうかがえます。その後50年たったの没後250年展は年2回行なわれました。初回は白石の研究者の宮崎道生氏（*1917～2005）により1976年（昭和51年）1月19日（月）～1月31日（土）までの13日間を会期とし、東海銀行本店営業部（*当時、愛知県名古屋市中区錦3-21-24にあった。同行はその後他銀行と合併する）のロビ

一を会場に「新井白石展 ー没後 250 年記念ー」として、2 回目は中央公論社（*現中央公論新社）と毎日新聞社の共催により、6 月 10 日～6 月 16 日の 7 日間の会期で東京の日本橋三越 7 階を会場に「新井白石とその時代展」と題して行なわれました。しかしながら、掛け軸の資料（*最長 2.2m 程度）は、木製パネルの衝立^{ついたて}に引っかけた状態で展覧された場合があったようです。現在では、そうした方法で行なっては貴重資料保護の観点から開催への理解が得られないのではないかと心配されます。

わたしたちが考えている「新井白石没後 300 年展」は、2 年後の西暦 2025 年（令和 7 年）に開催することとしていますが、その展覧予定の会場は、新井白石の若い日にゆかりのあった久留里の地のうちという意味もありますが、それに加えて展示室にガラス張りの展示空間をもった、本市の久留里城址資料館とするのが最良であると判断されました。先日、本市職員に照会した結果、本市には白石の恩人の伴幽庵に白石が宛てた書簡（*君津市指定文化財）^{くんじしげ}や軍司家から寄贈された元禄 2 年（1689）、白石 33 歳時に作成の貴重資料があるほか、本市では過去に同館の企画展で新井白石展を行なった経験のある職員がいること、新井白石のことで通じて白岡市と交流するうえで展覧会が学習・研究の参照の教材となるなどの利点が挙げられました。以上のことを考えますと、「新井白石没後 300 年展」は、同館を会場に本市と共催で行なうことが理想であるとの結論に至りました。そして、その予定の具体的な会期は、同館の企画展示の催しの行なわれる秋口からの 1, 2 か月の間とする（*2025 年内の詳細は未決定）と仮定し、おおよその構想を考えたところです。

以上をもって請願書の趣旨的な内容についての文とさせていただきます。

結びに、2012 年 9 月 29 日（祝日・土曜日）に白岡市^{ひろくに}で行なわれた同市の市制施行記念の講演会に前君津市長鈴木洋邦氏からの祝賀のメッセージと記念品（*雨城楊枝の額）の贈呈の代理者として出席され、その後の本市と白岡市との友好的な交流に尽力されましたが、2021 年 7 月 26 日にご病気により 74 歳の年齢をもって亡くなられた鶴田 剛^{ときた たけし}元君津市議会議長に対して、あらためて心よりの深謝をいたし、心からのご冥福をお祈りいたします。

以上でございます。

5 紹介議員 小林 喜久男

6 付託委員会 教育福祉常任委員会